

足の病気で悩んでいる方は おられませんか？

Q 足の病気で悩んでいます。日本には足の医師はいないと聞きましたが、どうしたらよいですか？

確かに、日本には欧米にあるような足病医(Podiatrist)はいませんが、足病学部(School of podiatric medicine)も一つありません。これは、歴史的に日本の医歯薬学を主体とした医療界構成から致し方ないことです。しかし、その中でも整形外科医を主体とした日本足の外科学会(設立49年)と形成外科医、内科医、血管外科医、看護師、理学療法士、義肢装具士らを主体とした日本フットケ

ア・足病医学会(設立5年)があり、それぞれ足の外科認定医(現在、約200名)、フットケア・足病治療認定師(現在、192名)といった資格を設けて、少しでも欧米の足病医学のレベルに追いつく切実な努力を怠っていない医療者集団がいることを知っていただきたいと思います。米国では足病医(Podiatrist)が約23,000人もいることを考えると、いかにもお粗末な人数ですが、まずは両学会のホームページから最寄りの足専門の医療従事者を探して、そこからアプローチしていただくのが現実かと思えます。ただし、両学会の構成員の性質上、日本足の外科学会は骨、関節、靱帯系が得意であり、フットケ

ア・足病医学会は皮膚、循環(血流)、基礎疾患(糖尿、透析など)、等が得意といった特徴があります。しかし、専門医(師)を名乗るからには、知識・技術を振り絞ることができるだけ自身で対応するか、あるいはそのネットワークを生かして、適切な医療機関、または医療者を紹介してくれると思います。ちなみに私は、医学部卒業後約40年が経過したロートルですが、これまで手外科、足の外科に長く従事してきた人間であり、整形外科、形成外科のいずれの面からもある程度の技術水準で対応できると思っています。といっても、全て、私が対応しているのは、体力的にも困難で、唯我独尊ではお先が知れています。幸い、

私の後輩に手外科、足の外科を志してくれる医師も出てきてくれますので、彼らにも分担してもらい、協力しながら診療に当たらせていただいています。骨、関節、靱帯、腱、神経、皮膚、爪の変形など整形外科的、形成外科的疾患に対して幅広く対応させていただいておりますが、水虫(白癬菌症)、爪白癬など明らかな皮膚疾患は皮膚科にお願いしております。また、

重度血流障害については心臓血管外科、循環器内科に治療協力を仰いでおります。さらに、糖尿病、腎疾患、心疾患、脳疾患など、患者さんの基礎疾患については当然ですが、それぞれ担当科に協力、担当いただいておりますので、どうぞご理解のほど、お願いいたします。

以下に、当科での治療実例を示しますので、参考としてください。

- ① 70歳代、女性。左重度外反母趾、第2趾ハンマー趾変形&同足底潰瘍、有痛性胼胝(第3中足骨頭底側)



- ② 70歳代、男性。両巨大母趾痛風結節および重症下肢虚血(右：自壊、潰瘍、感染)(左：壊疽)
治療内容：血管内治療による血流改善後に右は関節鏡視下に尿酸塩搔爬、切除。左は第1趾列切断、遊離腓骨皮弁移植にて被覆再建。



- ③ 80歳代、女性。両外反扁平足
疼痛など症状の強い右足に手術(距骨下3関節固定術)



岐阜市民病院 形成外科

今月の先生 大野 義幸

○専門分野

足の外科、手外科、肘関節外科、末梢神経外科、微小血管外科、形成再建外科

○役職

形成外科科長・部長

○主な資格、認定、所属学会

日本足の外科学会認定医
日本フットケア・足病医学会認定師
日本手外科学会専門医、指導医、代議員
日本肘関節学会評議員
日本形成外科学会専門医、指導医、

マイクロサージャリー指導医

日本整形外科学会専門医、脊椎脊髄病医

日本体育協会公認スポーツドクター

日本マイクロサージャリー学会会員

日本リウマチ学会会員

医学博士

○卒業年、主な職歴

昭和60年三重大学医学部卒業

昭和60年岐阜大学医学部付属病院整形外科入局

平成12年～23年 同手外科、形成外科診療班主任(臨床教授)

平成24年1月～ 現職

